

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

事業所番号	4191500034		
法人名	有限会社 さくら苑		
事業所名	グループホーム さくら苑		
所在地	佐賀県西松浦郡有田町仏ノ原甲1254番地2		
自己評価作成日	平成22年1月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年1月21日	外部評価確定日	平成22年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然や四季を、居ながらにして感じられる様に、窓を大きく取り、明るく開放的に保てるような施設作りを心掛けた。また、周りをバルコニーで囲み、いつでも戸外に居るような雰囲気を味わえるような空間を設けている。緑あふれる中でゆったりと利用者様が過ごせるように、常に玄関前には季節の花を絶やさないようにしている。まだ幼木ではあるが施設の名前の由来にちなみ、たくさんの桜の木を植えこんでいる。広い畑も確保している。草木や季節の野菜、果実など、利用者様と共に育て、楽しめるような機会を多く作りたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

有田町の郊外で、里山や田に囲まれた自然豊かな高台に建つホームである。運営者が古くからの地元住民で地域住民とも顔見知りであり、開設2年ではあるが地域に密着した事業所となっている。近くに民家が少ないが、閉鎖的にならないように積極的に地域行事に参加している。職員は殆ど地元住民で地域に根ざした介護を目指している。ボランティア訪問なども多い。ホームの敷地に隣接してデイサービスセンターと宅老所が運営され、食事の用意が共同で行われるなど利用者同士の相互交流もある。食堂兼居間ホールを取り囲むように広いウッドデッキがあり、天気の良い日はお茶飲みや食事の場として活用されている。デッキからは山や自然の風景がよく見え、居ながらにして四季の移ろいを感じる事ができる。四季折々の花を生け、ホームの菜園で収穫した季節の野菜や果物、旬の食材を利用した食事が提供されたり、季節に合わせた保存食作りをするなど四季を意識した生活が営まれているホームである。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを意識した理念ではないが、職員の介護に対する思いを理念に掲げている。 又、職員は毎朝、理念を唱和し共有につなげている。	「気くほり・目くほり・心くほり」という基本理念のもと、心に優しい介護と地域の高齢者を大切にしたい事業所独自の理念を作りあげている。管理者と職員は毎朝理念を唱和し、理念の確認を行っている。職員は入居者一人ひとりのあるがままを大切に、心のこもった介護を意識して入居者と接している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りやクリスマス会など、行事を行うときは、地域の方たちにも参加を呼びかけたり、地域行事に応援に参加するなど交流に努めている。	自治会に入会し、地域の清掃活動や行事に参加している。ホームの祭りや季節行事に近隣住民の参加を呼びかけたり、車椅子マラソン開催時には地域の方々と一緒に応援に参加するなど、事業所は地元住民と交流する事を心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方や、家族の方等が気軽に立ち寄れるような雰囲気作りに努め、来苑された際には、認知症の人へのケアの方法など相談に乗るように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、幅広い立場の人達に参加をもらい、ホームの運営状況や取り組み等を報告したり、意見を交わしたりして。又、話し合った事は、職員会議等で報告している。	運営推進会議は区長や民生委員、行政職員、入居者及び入居者家族などの参加で開催されている。ホームの活動や行事計画を報告し、参加者からは質問や意見・要望を受けるなど活発な意見交換の場となっている。広報や地域の情報が多く届くようになるなど、出された意見は運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、町の担当者に参加してもらい、運営状況や、利用者、職員の状況などを定期的に報告したり、助言をってもらう等、良い協力関係を築いている。	管理者や運営者は、地域包括支援センター職員・行政の担当者とは運営推進会議以外にも交流があり、日頃から何でも相談できる関係が築かれている。また、地域包括ケア会議で情報交換するなど協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、常に職員会議などで話し合い、センサーを設置したり、戸外へ出られる時には職員と一緒に同行するなどの対応をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束廃止に関する指針」があり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員は身体拘束に関する研修会に参加し、声の大きさや言葉掛けに注意するなど、精神的・言葉による苦痛のないケアに取り組んでいる。入居者は自由に行動でき、職員は見守りながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県の研修会に参加し、高齢者虐待防止法や現状などを学び、職員会議等で報告し、接し方声掛けの仕方、言葉使い等を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターの担当者とし合う機会を持ち、現在、成年後見人制度の申請を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、又は改定時には、十分な話し合いのもと、家族の方が納得された上で、契約、解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を受け入れたり、利用者の声には常に耳を傾け、その都度話し合いを行っている、又、事業所内に相談窓口を掲示したり、ご意見箱を設置している。	管理者は家族の面会時に意見や要望を聞いている。面会の少ない家族には電話をし、意見や要望を聞いている。重要事項説明書に苦情申立先を明記し、玄関には投函箱も設置されている。出された意見や要望は検討しケアプランに反映させる等、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的に行い、意見や提案を聞く機会を設けている、又、会議には代表者、管理者、全職員が参加するようにしている。	毎月職員会議を開き、運営者や管理者は職員と話し合う機会を設けている。管理者は常に職員と話し、要望や意見を聞くように心掛けている。職員は日々のケアの中で気付いた事を連絡ノートに記録してミーティングに活用し、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の個人面談を定期的に行い、給与、労働時間、職場環境などの意見要望などを聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なるべく多くの職員が、研修会への参加や、資格の取得ができるように、職員に案内を出したり、参加を呼び掛けるなど、推進に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区のグループホームとは交流があり、相互訪問や、情報の交換など良い協力関係が築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、自尊心を傷つけず感情に働きかけてゆっくりと本人の話に合わせて安心を確保する様、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の長い人生の中で歩んできたを家族の方との面会等で聞き、要望等を見つけ出して余裕を持って対応を出来る関係作りをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人があまり触れたくない人生の中味等を把握して一番喜びを感じられるサービス等に支援を持って行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の長年の人生に触れてはいけない部分は接することなく穏やかに耳を傾けて見守りながら関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会等は心から共に喜び独りではないということを感じてもらおう。又面会のない方の不安・寂しさを考え入所者をひとつの家族として支えて行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前まで暮らされていた場所や自宅への訪問(ふるさと訪問)を実施したり、暖かい態度で接し昔話し等を語り合うなどの支援に務めている。	本人や家族と話し、これまでの生活歴や人間関係・社会との関係の把握に努めている。馴染みの店での買物や行きつけの美容院利用、お寺参りなど行きたい場所に同行するなどの支援がなされている。友人に電話をかけたたり手紙を書くなど、職員は見守りながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年齢的な考えの違い、生まれた時の環境の違いもそれぞれです。ホールでの共通の話題をみなさんが楽しめるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された後も利用者や家族からの相談等に応じ細々とはあるが関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は常に入居者一人ひとりの人格を尊重し意向に添うような暮らし方を支援している(本人が思っている「現実」を否定しないなど)	職員は日々の生活を通して入居者と会話する事を心掛けており、普段の会話の中から意向を汲み取る努力をしている。希望や意思を伝えることが困難な入居者には、馴染みの品や写真を活用して話しやすい雰囲気づくりをするなど工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの生まれてこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は常に入居者を見守りやすい場所に居て入居者一人ひとりの位置と様子を把握している(入居者のそばでの記録、入居者の様子がわかる調理・配膳場所等)。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームで作る利用者本位の介護計画、本人や家族の意向を聞きそれを反映させた介護計画を作成している。 計画は意見交換、検討をし作成している。	入居者や家族から要望を聞き、具体的な介護計画が立てられている。計画作成担当者・担当職員ら関係者でモニタリングが行われ、主治医の意見や家族の意見を取り入れて現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。介護計画をすべての職員の気付きや意見を練り入れてつくっており、すべての職員が計画の内容を知ることが出来る仕組みを作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ベランダや外回りを活動し楽しむことが出来るように活かしている(物干し場、園芸、草取り等)。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センターや民生委員には、運営推進会議に出席してもらい、必要に応じ相談・助言をうけている。又、個別訪問相談援助事業や介護相談員を受け入れるなど協働に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時以外は本人、家族に状態を説明し受診をすすめている。かかりつけ医へも状態の報告など行い受診の必要性など相談している。	入居者本人や家族の意向を大切に、入居前のかかりつけ医の継続受診を支援している。通院などの送迎は、本人や家族の要望に沿って支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在時の状況、変化など随時報告を受け、必要な対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症のある利用者の入院を受けてもらえる医療機関を確保している、又、早期退院のための話し合いや協力を医療機関と行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期には、入院など医療機関と連携して支援する体制を整えている。又、重度化した場合における指針を定めているが、まだ実施には至っていない。	「看取りに関する指針」「重度化した場合における(看取り)指針」があり、入居契約時に本人及び家族に説明が行われ同意を得ている。本人の状態に合わせて家族と話し合いを持つ体制ができており、家族と職員・事業所は方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時を具体的な例をあげて、初期対応策を全職員が認識(見解の統一)できるような、訓練の機会を設ける必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管内の消防署に指導、点検を受け、定期的に消火訓練、避難訓練などを実施している。又、近隣の方にお願ひ協力を得られる体制を整えている。	消防署指導の避難誘導訓練や消火訓練が実施されている。地域住民へ連絡はしているが参加要請はしていない。	昼夜を通じた様々な発生時間を想定し、地域の人々の参加や協力を得ての避難訓練の実施も期待したい。飲料水や食料・物品など、災害に備えた備品等の準備と安全対策の更なる充実を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等では常に、接し方や、声掛けの仕方について話し合い、又、「スタッフの心得」を作成し職員の意思統一を図り、利用者の尊厳を重視した対応をしている。	個人情報の利用目的を明確にし、入居契約時に家族等に説明して同意書が交わされている。写真や氏名など個人を特定できるものは特に注意し、慎重に取り扱われている。	羞恥心に配慮し、尊厳を大切に言葉かけなどなお一層の取り組みの充実を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の話を傾聴する事を常に心掛け、一人ひとりの思いや要望を引き出し、自己決定の出来る環境をつくるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状況のに対応して柔軟な対応を心掛け、出来るだけ本人の要望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服装が出来るよう支援をし、職員と一緒に化粧をしたり、望まれる美容室への送迎や訪問美容などの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は楽しい会話を心掛けている。又、無理な摂取は避け本人のペースで楽しく食事ができるように支援している。 片付けの手伝いや、お盆拭きなど出来るだけ一緒にするようにしている。	食事の下ごしらえや後片付け、テーブル拭きなど利用者が出来ることは職員が見守りながら支援している。入居者と一緒におやつを作ったり、入居者の要望でパン食に変えたり、献立の変更も柔軟に行われている。入居者と職員は同じテーブルで会話をしながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理員を二名配置し、常に栄養バランスの取れた食事、又、一人ひとりに合わせた摂取しやすい食事(具の大きさや量など)を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨きは、声掛けや介助を行っている。義歯の方は就寝前に洗浄剤に浸け、清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄機能やパターンを把握し、一人ひとりに合った声掛けと誘導をし、おむつ使用を減らしている。又、時間を決めて誘導したり、様子がおかしいと思ったら声を掛け促してトイレに誘導をしている。	入居者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心掛けている。排泄チェックシートを活用してトイレで排泄できる様に支援しながら、紙パンツやパットなど本人の希望に合わせて使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事やおやつ時牛乳やフルーツ食物繊維の多い食材を選び、摂取していただくなど心掛けている。又、主治医や看護師と連携し、個々に応じた服薬の調整や水分摂取に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は、利用者の希望やタイミングで行っている。出来るだけゆっくりと入浴できるよう配慮している。	入浴希望がある場合は夜間を除きいつでも入浴が可能である。一人で入浴される方や友人と一緒に入浴される方、入浴剤を使用したりシャワーのみなど個々に応じた入浴支援がなされている。入浴を拒まれる入居者には無理強いせず、声掛けや時間を変えて支援している。足浴器を利用した足浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や休息は、個々の希望で、その人の状況に応じた場所で、気持ちよくとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報は、個別にファイルし、職員がいつでもすぐに確認出来るようにしている。又、主治医や看護師と連携し、一人ひとりの状態や症状の変化に合わせて薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やる気や喜びのある日々を過ごせるように、おやつ作りや音楽を楽しんだり、絵描き、書道などを行っている。又、散歩や外出など気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩や、地域行事の応援に参加したり、食事会で外食を楽しむなどの支援をしている。又、季節に応じた外出(花見、紅葉狩り等)を行っている。	隣接のデイサービス事業所訪問や散歩、買物やドライブなど入居者が希望されれば職員はできる限り支援している。弁当やお菓子持参のピクニックや花見などの外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物などの機会は少ないが、本人がお金の大切さを理解してもらい使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人との手紙のやり取りは少ないが、本人の要望で自ら電話を出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、テラス、居室より見渡せば、季節に応じた木や花が見ていただける環境にある。又、床や壁などに木材を多用し家庭的な雰囲気を出せるように工夫している。	ホーム内は木目調に色彩が統一され、静かな音楽が流れるなど優しい落ち着いた雰囲気となっている。入居者手作りのカレンダーや花・植物で季節感を感じる雰囲気作りがなされている。毎朝窓を開け、換気を心掛けている。畳敷きのスペースがあり、家庭的で生活感のある居間として活用されている。日差しの強い時は、ロールブラインドで調節している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に和室があり、疲れたら横になられるなどして利用されている。又、ソファでは気の合う利用者同士が座られたり、暖かい日には自由にテラスへ出て外が眺められるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には広さに応じて、ご自分の家具やベッド、写真などを持ち込まれている。又、テレビを持ち込まれている方もおられる。	ベッドを含む家具類やテレビなどの持ち込みは自由である。入居前に使用されていたタンスや仏壇などを持参されている入居者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎月カレンダー作りを利用者と職員が協力して作成し、いろいろな得意分野に分かれての作業で、ゆっくり作成してもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない